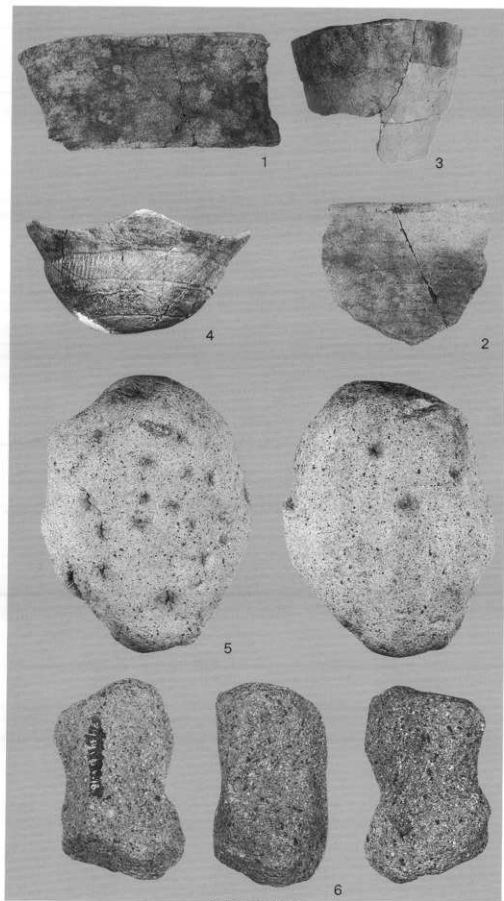
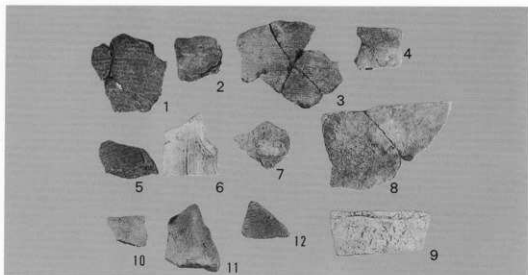


02住 出土遺物

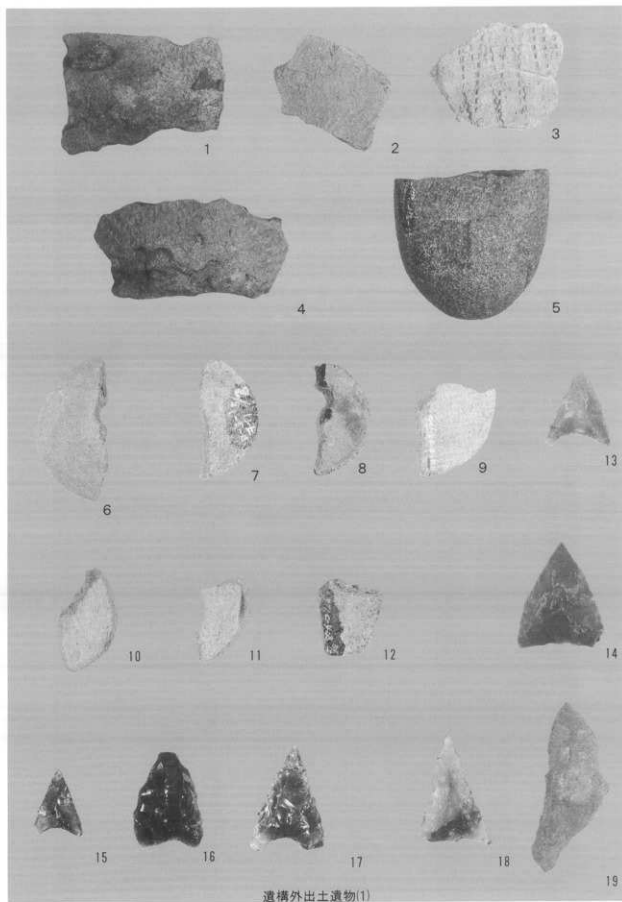


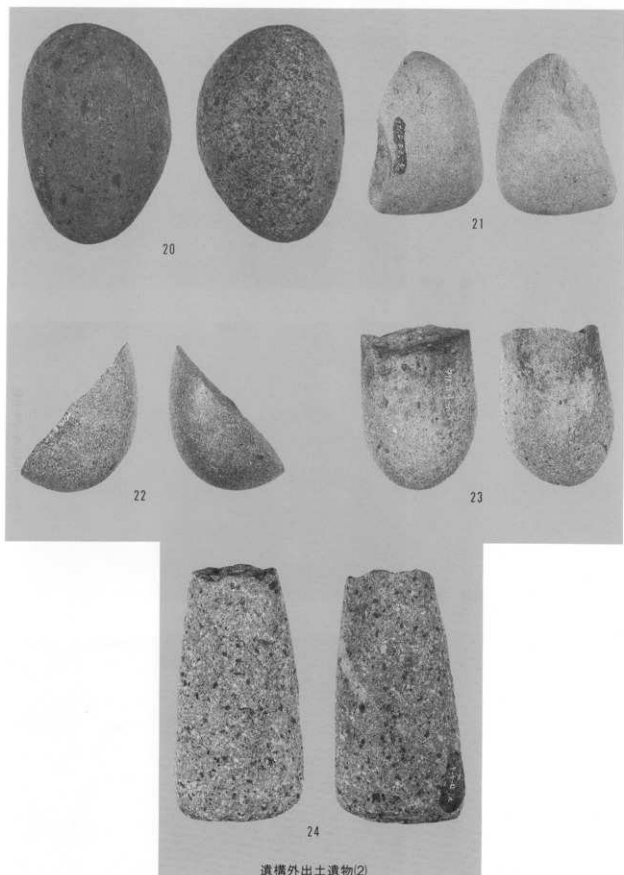


P-1. 2 出土遺物



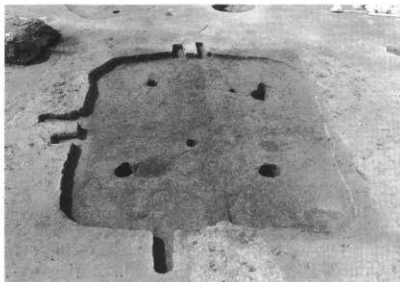
09土坑 出土遺物





図版48

ライノ作南遺跡1



01住 全景



02住 全景



03住 全景

ライノ作南遺跡2

05住 遺物出土状況



05住 貝出土状況



05住 全景

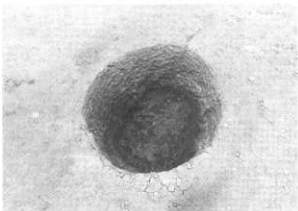


図版50

ヲイノ作南遺跡3



P-02 全景



P-11 全景



P-13 全景



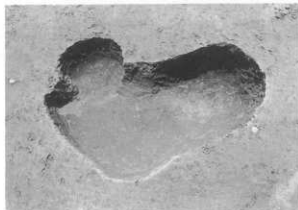
P-16 全景



P-17 全景



P-18 全景



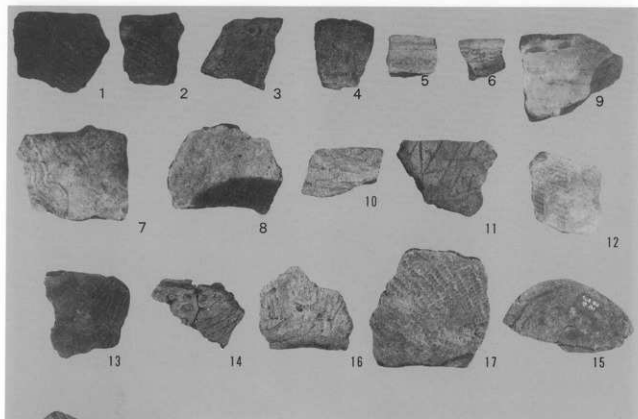
P-20 全景



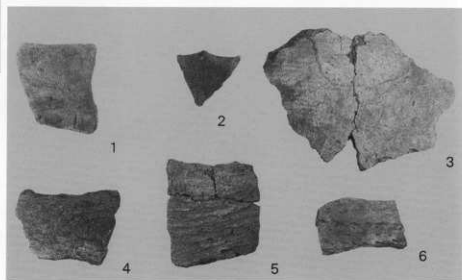
P-21 全景



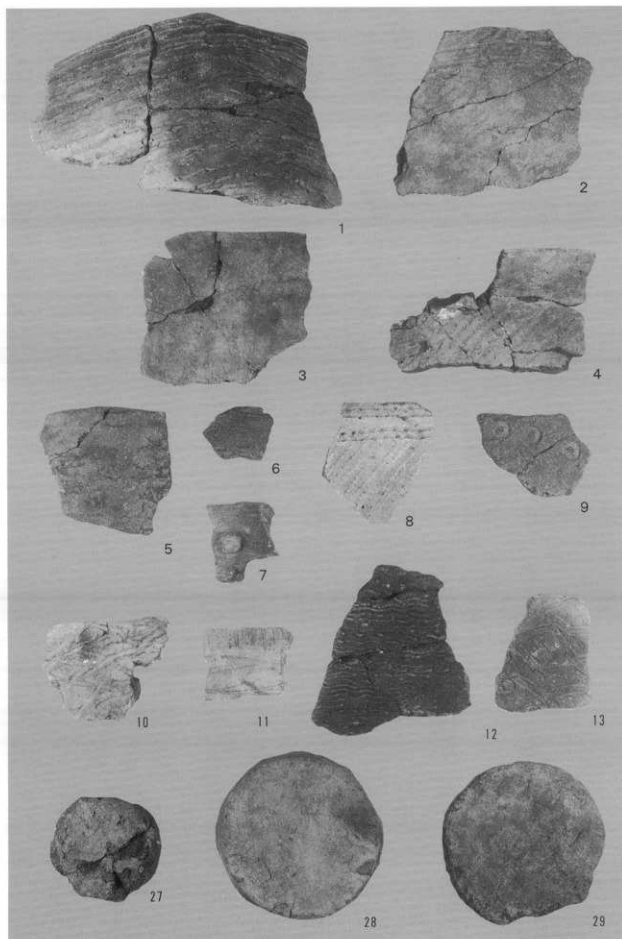
ライノ作南遺跡4

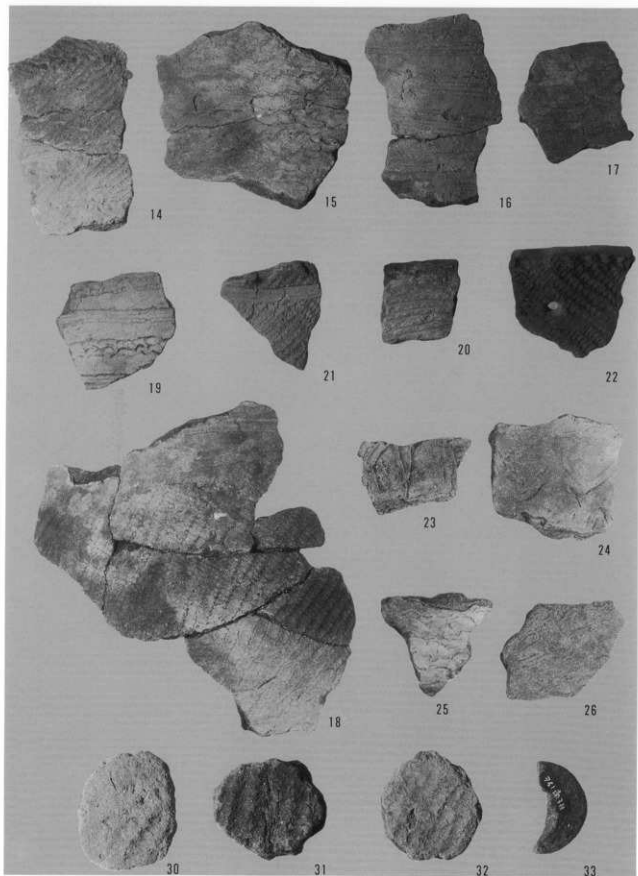


01住 出土遺物



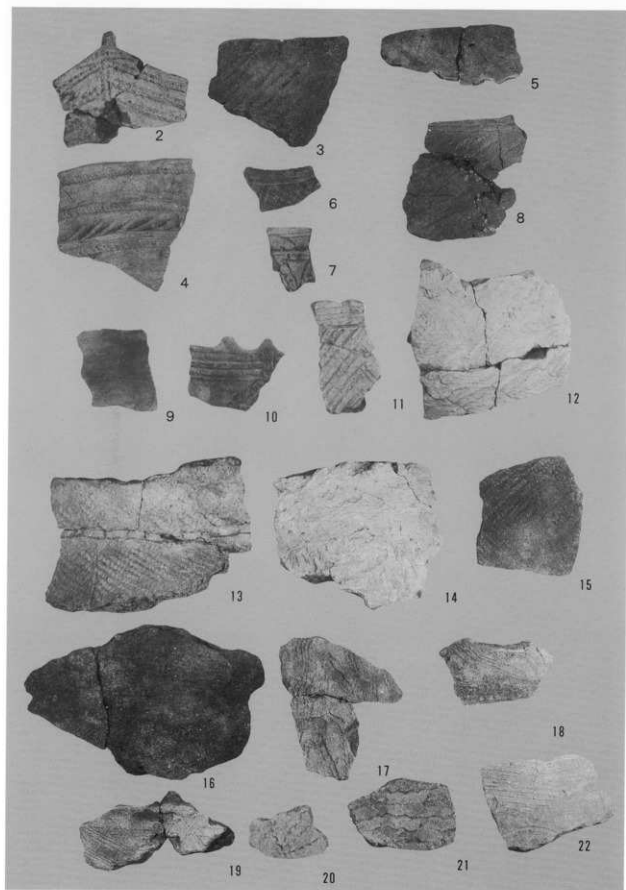
02住 出土遺物



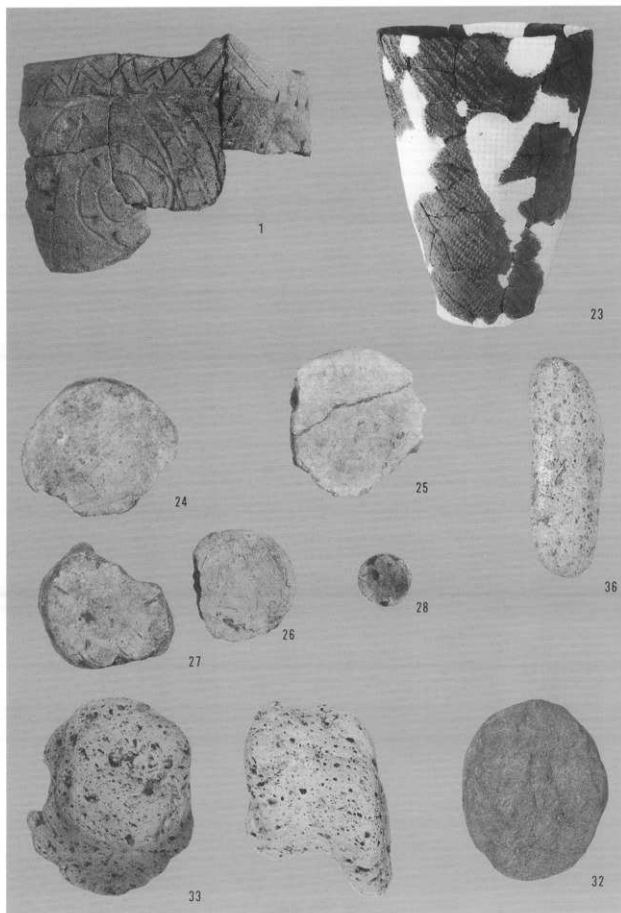


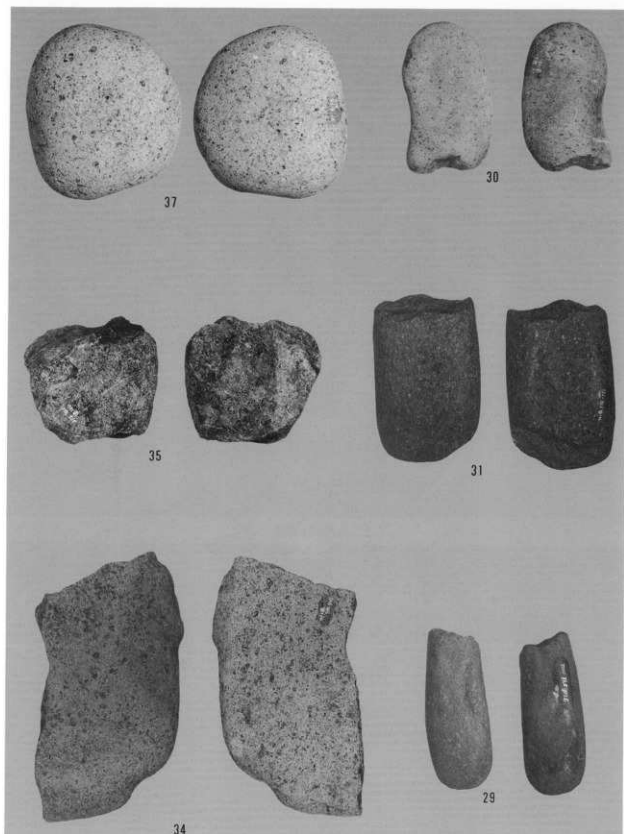
03住 出土遺物(2)





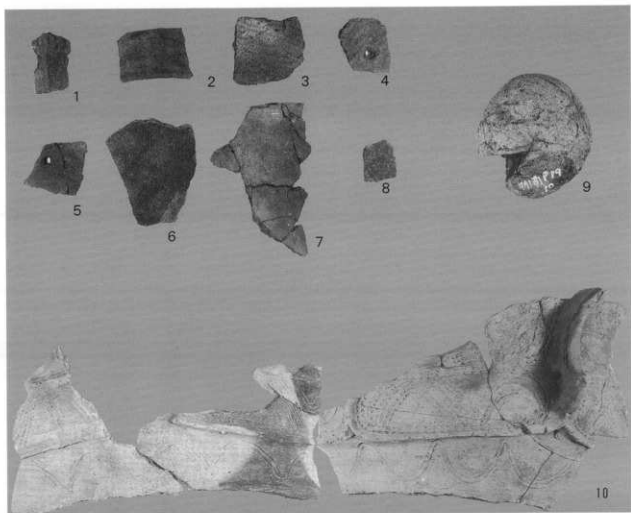
05住 出土遺物(1)



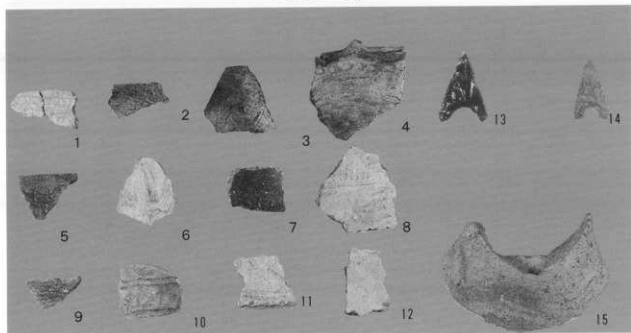


図版58

ライノ作南遺跡11



ビット出土遺物



遺構外出土遺物



付 篇

## 例言・凡例

- 1 付篇として、西八千代東部土地区画整理事業の実施に伴う上代氏邸部分を仲ノ台遺跡b地点として併せて報告する。
- 2 発掘調査は、西八千代東部土地区画整理組合の依頼を受け、八千代市西八千代遺跡群調査会が実施した。
- 3 発掘調査は、平成9年2月13日から同年2月27日にわたって実施した。
- 4 整理作業は、平成9年4月4日から同年4月30日にわたって実施した。
- 5 発掘調査、整理作業、原稿執筆、遺物写真撮影、編集とも森 竜哉が担当した。
- 6 遺物実測及び拓本、遺構、遺物のトレース、組版は落亀昌子が行い、森が統括した。
- 7 出土遺物、実測図等は八千代市教育委員会が保管している。
- 8 発掘調査から整理作業、原稿執筆にいたる過程において、内外の方々に御指導、御協力いただきました。記して感謝いたします。特に縄文土器については日本考古学研究所の小川和博氏に御教示いただきました。あわせて感謝いたします。
- 9 凡例は前篇に準ずる。

## 本文目次・挿図・写真図版目次

第1章 調査に至る経緯と調査方法	2
第2章 調査の概要	2
第3章 仲ノ台遺跡b地点の概要	4
I 旧石器時代	4
II 縄文時代	4
III 遺構外出土遺物	7
IV 小結	10

### 挿図目次

図1 仲ノ台遺跡b地点遺構配置図	3
図2 剥片実測図	4
図3 基本層序図(C3-1G)	4
図4 O1P遺構平面図・遺物実測図	5
図5 O2P遺構平面図	6
図6 O3P遺構平面図	7
図7 遺構外出土遺物実測図(1)	8
図8 遺構外出土遺物実測図(2)	9
図9 ライノ作03住・ライノ作南05住 出土遺物実測図	11

### 図版目次

仲ノ台遺跡b地点	
図版1 遺跡全景 C3-1G土層堆積状況	
図版2 O1P全景 O2Pプラン確認状況 O2P全景	
図版3 O3Pプラン確認状況 O3P全景 O3P炉跡	
図版4 旧石器時代剥片 遺構外出土石鏃 O1P出土遺物 遺構外出土遺物(1)	
図版5 遺構外出土遺物(2)	

## 第1章 調査に至る経緯と調査方法

前篇の第1章で調査に至る経緯と調査方法の項においても触れているように、未承諾地及び既存宅地部分については立ち入りが可能となった時点で試掘を実施する旨、県文化課の指導があった。即ち対象面積の1%程度を掘って遺構の有無を確認したのち、調査が必要か否かを判断するというものである。上代邸内に立ち入りが可能となった平成8年2月、重機による試掘を実施した。その結果1ヵ所において落とし穴状遺構を検出した。現状保存が難しいことから邸内の4,900㎡について確認調査を実施することとなった。

なお、調査方法は基本的に、前篇に準拠した。

## 第2章 調査の概要

仲ノ台遺跡b地点

- |            |                               |
|------------|-------------------------------|
| ① 所在地      | 大和田新田字仲ノ台1132-3他              |
| ② 確認・本調査期間 | 平成9年 2月13日～同年2月27日            |
| ③ 確認調査面積等  | 上層4,900㎡の内490㎡ 下層4,900㎡の内 56㎡ |
| ④ 本調査期間    | 確認調査の範囲で遺構部分は拡張後調査を実施。        |
| ⑤ 検出遺構     | 縄文時代早期の落とし穴状遺構2基 同前期の小竪穴状遺構1基 |

周辺遺跡の参考文献一覧

- 大鷹依子 豊田秀治「八千代市沖塚遺跡・上の台遺跡 他」  
(財)千葉県文化財センター1994

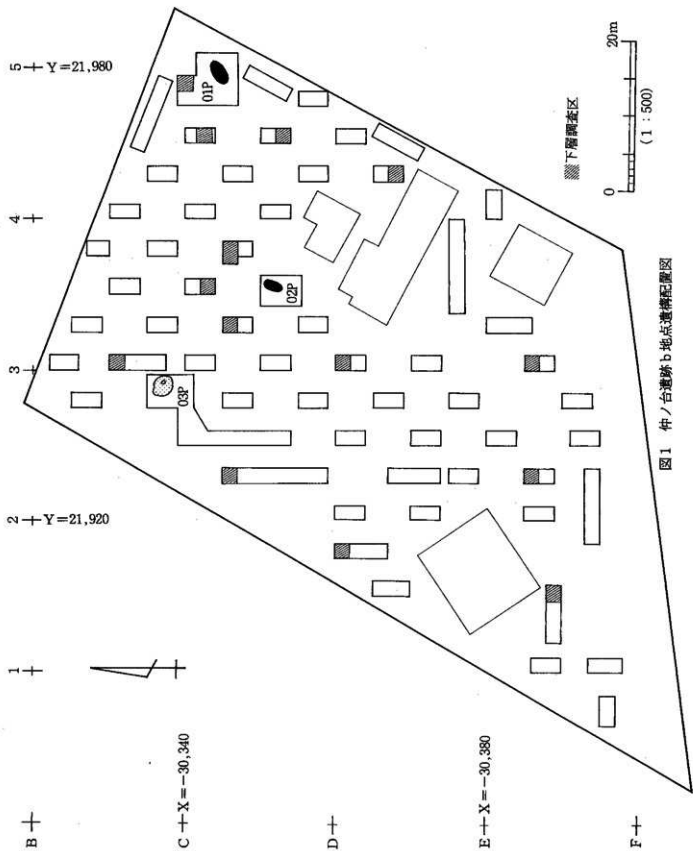


図1 中ノ台遺跡b地点連絡配置図

## 第3章 仲ノ台遺跡b地点の概要

### I 旧石器時代

**概要** 本遺跡では南側に隣接して発掘調査が実施されている。調査は開千葉県文化財センターによるもので遺物集中地点が2ヵ所検出された。この点を考慮して可能な範囲内で、2m×2mの下層トレンチを設定、掘り下げを行った。結果として同一地点より剥片が2点出土した。

C3区遺物出土地点(図1・2 図版4)

**出土状況** III層下層～IV層上位を出土層位としている。位置はC3-14Gに分布する。遺物は図示した2点のみである。C3-14G掘り下げ時に1点出土し、西側に拡張したが更に1点出土したのみであった。西及び北西トレンチに更に範囲を広げたが遺物の出土は見られない。

**出土遺物** 2点とも剥片で、石質は1, 2ともに黒曜石である。1は長さ1.8cm、幅0.8cm、重量0.4gを測る。長軸の両辺に刃部状の剥離がみられるが、角度、使用痕の観察から石器とは認められない。2は長さ2.4cm、幅0.9cm、重量0.3gを測る。

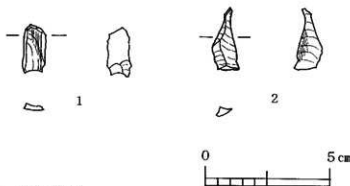


図2 剥片実測図

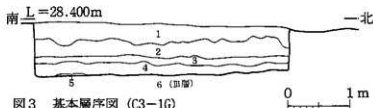


図3 基本層序図(C3-1G)

### II 縄文時代

**概要** 試掘時に01Pを検出していたので当該時期の遺構が検出されることは想定された。結果として早期の落とし穴状遺構(01P, 02P)2基と前期の小竪穴状遺構(03P)1基を検出した。

01P(図4 図版2)

**位置** C5-1Gに位置する。

**規模** 2.38m×1.23m×深さ2.47mの楕円形を呈する。主軸方向 N-64° - E

**所見** 覆土は上層に黒褐色土、中層以下ぼそぼその褐色土となっている。遺物は縄文早期茅山式、前期末葉の土器片が出土している。

01P出土遺物(図4 図版4)

1～3は茅山式の土器片である。1は口縁部分で、平縁の直上部に弱い刻み目が見られる。内外面には横位の貝殻条痕文が施文される。胎土には多量の繊維を混入している。2は隆起帯をもつ胴部分である。隆起帯は緩いカーブで明確な区画とはいえない。この帯に沿って、不規則ではあるが三角形の凹み文がみられる。内外面には横位の貝殻条痕文が施文される。胎土には多量の繊維を混入している。3は胴部下半部分で、外面が横位条痕文、内面が縦位条痕文を施文する。胎土には多量の繊維を混入している。4, 5は前期末～中期初頭の土器片である。4は縄文原体の押圧文を二条巡らしている。口唇部に無節縄文?を施文している。胎土は砂粒を多く含んでいるが、焼成は良好である。5は口縁部下に無節縄文を施文したのち縄文原体の押圧文をジグザグ状に区画する。胎土は密で薄手である。

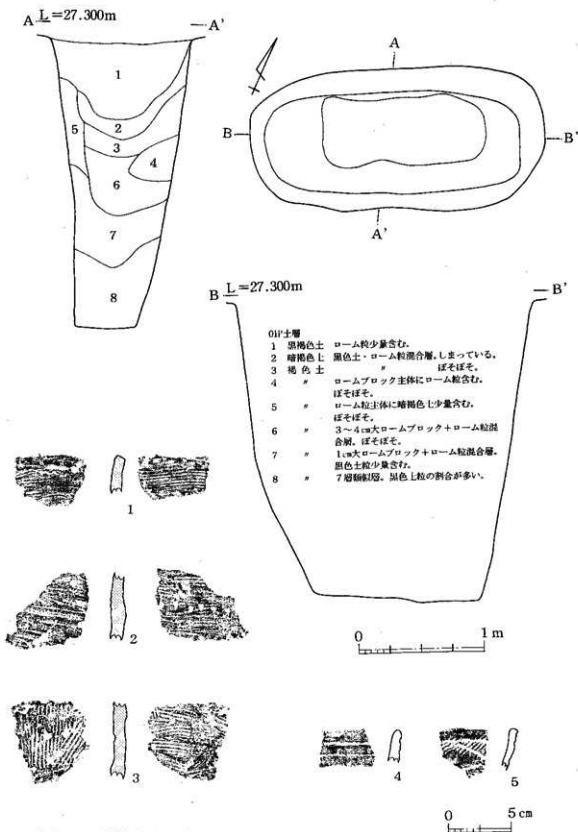


図4 O1P遺構平面図・遺物実測図

02P (図5 図版2)

位置 C3-11Gに位置する。

規模 2.40m×0.98m×深さ1.8mの楕円形を呈する。主軸方向 N-10° - E

所見 覆土は上層に黒褐色土、中層以下ぼそぼその褐色土となっている。なお、最下層に黒褐色土を含んだ土層が堆積している。遺物は発見されなかった。

03P (図6 図版3)

位置 B2-15Gに位置する。

規模 2.50m×2.35m×深さ0.06mの不整形円形を呈する。主軸方向 N-81° - E

壁高 北壁0.06m・東壁0.06m・南壁0.06m・西壁0.06mで、中央やや西側で若干深くなっている。

床面 南東コーナーにやや張り出した部分をもった円形状に硬化面が見られる。部分的にハードローム化しており、踏み締められている。

施設 炉 中央やや東寄りに位置する。不整形円形で0.28m×0.22m 深さ4cm程度の皿状の掘り込みを持つ。覆土は黒褐色土に焼土粒を混入している。炉底は南側に偏って焼土ブロック化している。

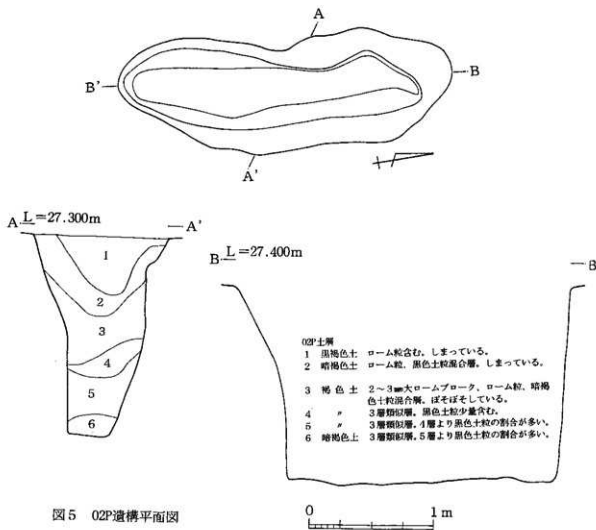


図5 02P遺構平面図

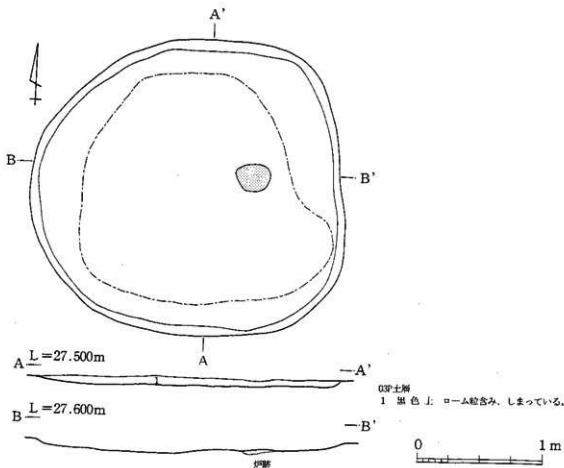


図6 03P遺構平面図

### III 遺構外出土遺物

**概要** 本遺跡において出土した遺物は01P掲載土器以外は大半が縄文前期後半の諸磯、浮島、興津式に限定される。出土地点は浮島Ⅱ～Ⅲ式がC2-9、10G、B3-8G、C3-14Gに集中する。興津式がD4-6GとB2-14Gに集中する。出土層位は3層下位～4層上位に集約される。

1は諸磯a式で半截竹管による爪形文が施文される。2は浮島Ⅱ式で平行沈線文と波状貝殻文を組み合わせている。3、4は浮島Ⅱ～Ⅲ式で3は放射肋のないハマグリによる波状文を施文する。4は連続三角文を2段以上施文する。

5～35は浮島Ⅲ式を一括した。5は放射肋のない波状貝殻文を深く施文する。6、7は貝殻をずらしながら波状に施文している。8～10は器面に擦痕の見られるものである。焼成は極めて堅く淡茶褐色を呈する。胎土には雲母、長石とごく少量の砂粒を含んでいる。11～17は胴部分において無文のものである。焼成は極めて良好で暗赤褐色～茶褐色を呈する。胎土には雲母、長石を混入する。ナデ整形があたかもミガキ状に施されている。18～21は条線帯を口縁下に巡らす一群である。18、19は刻み日に近い条線帯を巡らす。口縁下半は無文である。20は竹管状工具による条線文を施す。その下部には棒状工具による押し引き沈線が二条見られる。21も竹管状工具による条線文を施す。下部には連続三角文を4段以上施文する。4点とも焼成は良好で淡橙褐色を呈する。22～27は連続三角文を施文する一群である。22、23は砂粒を含み淡褐色を呈する。24～26は砂粒を含まず暗褐色、淡橙褐色を呈する。27は口縁部分で口縁部分で口唇部がつまみ上げられている。この部位に細い竹管状工具による刺突文が見られる。すぐ直下には三角文が施文される。胎土は砂粒を含み、暗褐色を呈する。28～31は平行線文と無文のものの一



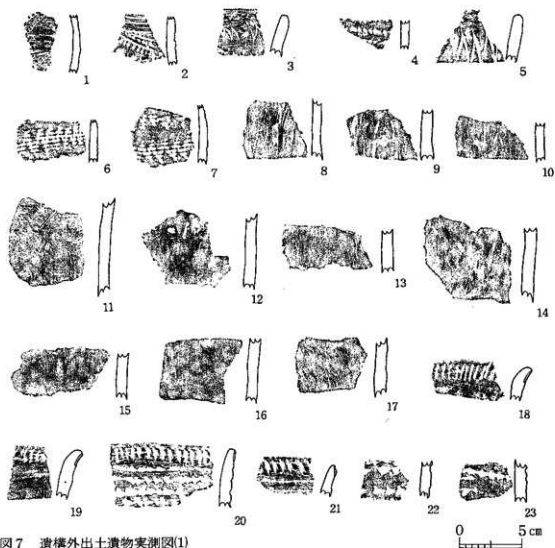


図7 遺構外出土遺物実測図(1)

括した。28はいくらか羽状を意識した平行線文のみを施文する。29は連続三角文と平行線文を組み合わせたものである。30は三角文下部が無文となっている。31は角押文に近い連続三角文の下部に平行線文を施文している。32は折り返し口縁上部に斜方向の条線帯、下部に回み文を施文する。33~35は底部で基底部がやや張り出す特徴を有す。

36~39は浮島Ⅲ式~興津式の間中期に位置づけられる一群を一括した。竹管状工具による施文を基本としている。36, 37は半截竹管の先端に切り込みを入れた工具による刺突文、沈線文を施す。38, 39は半截竹管による沈線文を縦方向に施文する。焼成は良好で暗褐色を呈する。

40~49は興津式を一括した。40は口唇部に刻み目、その直下に指頭圧痕文を施文する。更にその下部に細線状の沈線文を施す。41~44は沈線区画内に貝殻腹縁文を充填した一群である。41は平縁の口唇端部に条線文、その直下に縦方向の貝殻腹縁文、下部は沈線区画内に貝殻腹縁文を充填している。胎土は砂粒を多く含み、長石、雲母を混入する。焼成は良好で淡橙褐色を呈する。45は竹管状工具による沈線文を施文する。46~49は無文の一群を一括した。胎土は砂粒を含み、長石、雲母を混入する。焼成は良好で淡褐色、茶褐色を呈する。50は基部の一端と先端部を欠損する石礫である。全長3.9cm、最大復元幅2.9cm、重量3.4gを測る。石材はチャートを使用している。両面とも周縁は押圧剝離調整を行っている。

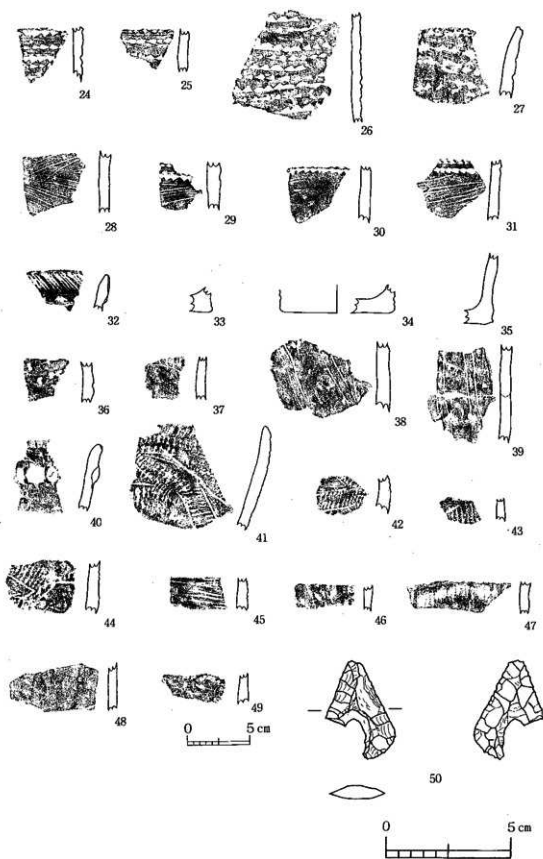


图8 遺構外出土遺物実測図(2)

#### IV 小結

旧石器時代 前述したが千葉県文化財センター調査の仲ノ台遺跡では、調査区東側の台地先端部において遺物集中地点が2ヵ所検出されている。これとは別に調査区中央で剥片が1点出土している。今回調査した本遺跡の遺物の出土状況はまさしく後者に近いと言える。地点もほぼ近接している。仲ノ台遺跡でのⅢ～Ⅳ層上部の遺物分布は非常に薄いと見えるのではなかろうか。

縄文時代 検出した遺構は早期の落とし穴状遺構2基と前期浮島Ⅲ式期の小竪穴遺構1基である。

#### ピットの基本データ

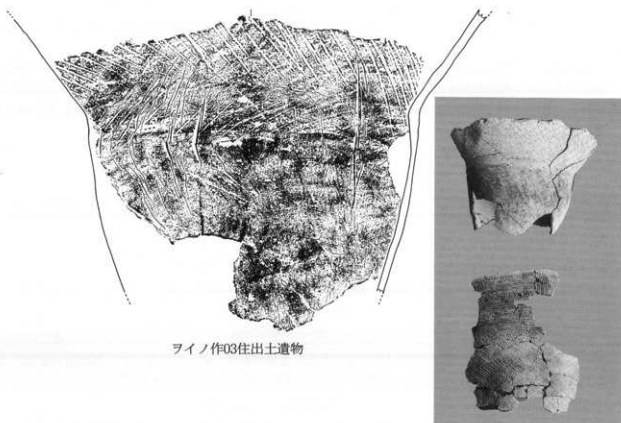
01P規模 2.38m×1.23m×深さ2.47mの楕円形 主軸方向 N-64° -E

02P規模 2.40m×0.98m×深さ1.8mの楕円形主軸方向 N-10° -E

03P規模 2.50m×2.35m×深さ0.06mの不整形 主軸方向 N-81° -E

01,02Pは早期としたが、形状からは01Pが丁寧で、02Pが粗雑なつくり方となっている。遺物は01Pのみの出土となっており、02Pの時期は不確定である。占地は軸は一致していないが、確認面が標高27.3m前後となっている。台地上平坦部に位置しており、けもの道づたいに仕掛けられたものであろう。以上のことから、時期差は多少あるもの著しく異なる時代とは考えがたい。

03Pは小竪穴ではあるが床硬化面の存在、使い込まれた炉等の施設から作業小屋等の性格が考えられよう。なお、竪穴内からは時期を決定する遺物は出土していないが、隣接カ所の3層下位部分から浮島Ⅲ式の土器片がまとまって出土しており、該期の所産と考えられる。



ライノ作03住出土遺物



ライノ作南05住出土遺物

図9 ライノ作03住・ライノ作南05住出土遺物実測図

仲ノ台遺跡 b 地点 1



遺跡全景



C3-1G土層堆積状況

図版 2

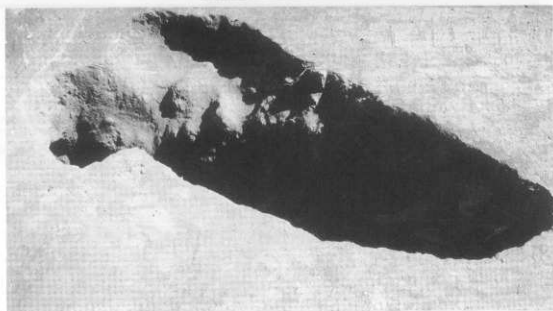
仲ノ台遺跡b地点2



01P全景



02Pプラン確認状況



02P全景

仲ノ台遺跡 b 地点 3

03Pプラン確認状況



03P全景

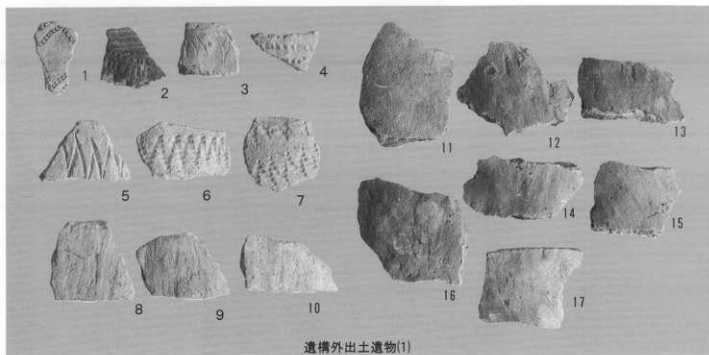
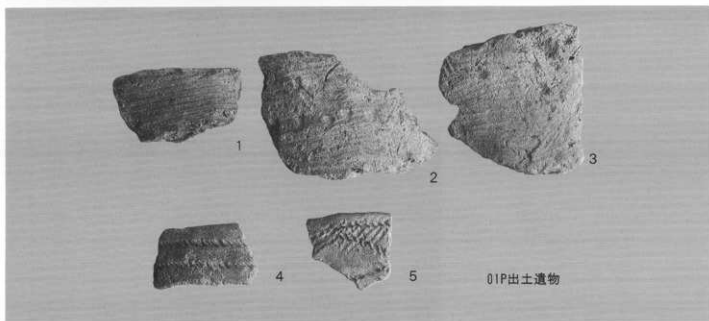
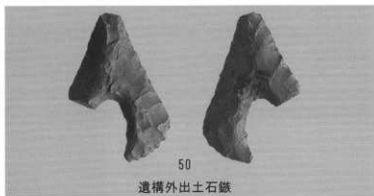


03P炉跡

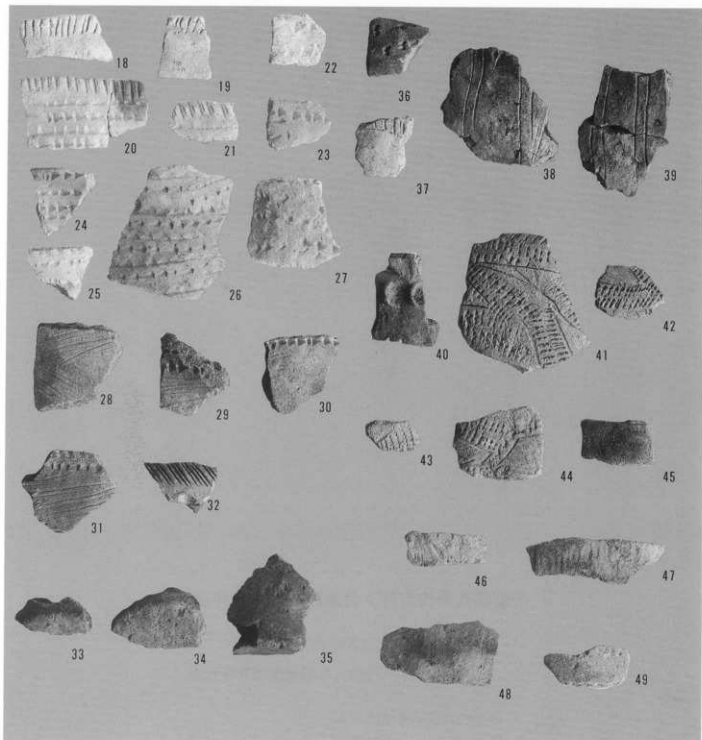


図版 4

仲ノ台遺跡b地点4







## 千葉県八千代市仲ノ台遺跡・ヲイノ作遺跡他

— 西八千代東部土地区画整理事業に先行した  
埋蔵文化財発掘調査報告書 —

印刷日 平成8年12月18日

発行日 平成8年12月25日

発行 八千代市西八千代遺跡群調査会

〒276 八千代市大和田新田312-5

八千代市教育委員会生涯学習部社会教育課内

印刷 金子印刷企画

〒276 八千代市萱田410-1